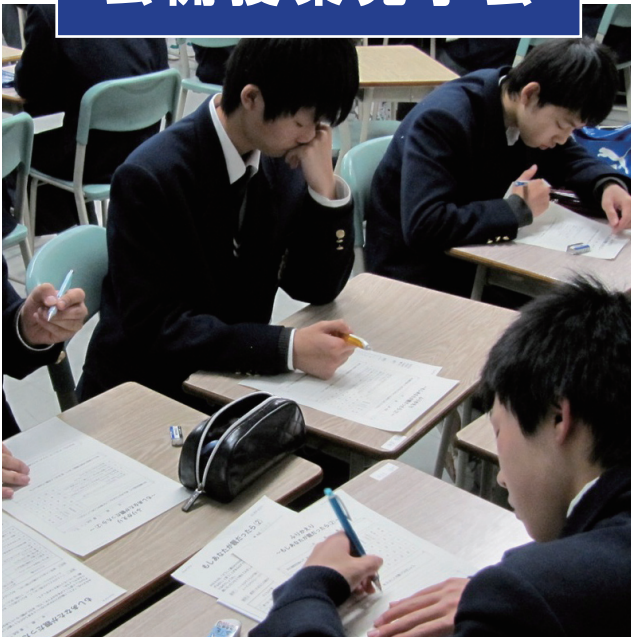


# 小松原高等学校

## 『グループコミュニケーション学習』レポート

### 公開授業見学会



### グループ・コミュニケーション学習

会場：大森学園高等学校  
開催：2012年12月11日(火)  
13:30～14:20  
終了後：意見交換会／インタビュー

小松原高等学校(私立・全日制・共学)

住所 336-0017 さいたま市南区南浦和3-21-8

電話番号 048-885-1488

Web <http://www.komatsubara.ac.jp/>

## 小松原高等学校

### 生徒一人ひとりの人間性育む教育姿勢の小松原高等学校！

小松原高等学校は昭和34年に創立されました。

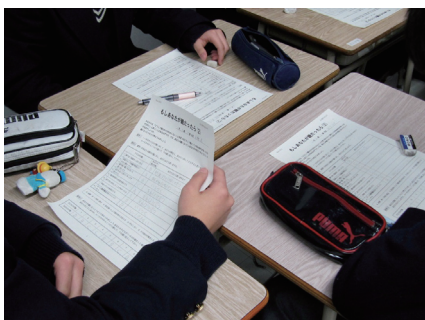
以来、教育目標に「みんなから愛される人間」「社会に役立つ人間」「勤労を尊び前進する人間」を掲げ、徹底した学習指導と共に、挨拶や言葉使いに始まる礼儀、規律のある生活習慣、公共心の育成など、豊かな人格形成の基礎となる教育に力を注ぎつつ、知識や技術に偏ることなく、生徒一人ひとりの人間性をあらゆる角度から見つめ、バランスのとれた人間を育むことを教育の基本にしている学校です。



12月11日（火）に1学年3クラスによるグループコミュニケーション公開授業が行われました。

当日は普通科1年の1・2・3クラス（この日のための混合クラス）の授業を見学しました。

『もしあなたが親だったら』というテーマの教材を使用した、阿久原先生と川上先生によるチーム・ティーチングでの授業が展開されていました。



授業の流れ

導入(大枠の説明)

各自シートに記入(個人研究)

抜き打ち指名し、記入内容を生徒が発表

5~6名のグループ作成(リーダー1名)

10分話し合いをし、意見のまとめ

各グループリーダーがまとめを発表

各自振り返りシートを記入

先生によるまとめ

New CP-8

もしあなたが親だったら (2)

内容とねらい

- 自分が親になったら子どもをどうしつけるかを考える体験を通して、子どもと親の考え方のズレに気づかせる。
- グループでの話し合いを通して、メンバーとの考え方の違いに気づくことと、親の思いについて言語的に考える体験をさせる。

準備 準備  
 ◎ シート『もしあなたが親だったら(2)』  
 ◎ シート『自分なえり』  
 ◎ 筆記用具

もしあなたが親だったら(2)

みなさんは、どうして子どもが親戚からないことを喜ぶのかわからず、喜ぶだけで子供の時代があったはるかならうか、と思うことがあるはずですよ。では、あなたが親になったらあなたの子供をどうしようか、親になったらどう育ててあげようか。

問題1 1～6の子どもを順番に読んで、あなたの親から、あなたに対してどう育てようかという話をしよう。

A～Eの中から1つを選んで、2分間話して下さい。

問題2 問題1のあなたの親の行動に賛成し、あなたはどう思いますか。

子どもの行動	賛成する理由	あなたはどう思いますか
1 家でよく勉強するから		
2 家族の手で掃除機を回すから		
3 家族の手で洗濯機を回すから		
4 家族の手で掃除機を回すから		
5 家族の手で洗濯機を回すから		
6 家族の手で掃除機を回すから		

A 準備 問題1～6の行動を順番に読んで、あなたの親から、あなたに対してどう育てようかという話をしよう。

問題2 あなたが親になったらどう育てようか、あなたの子供が1～6の行動をした場合、あなたはどう思いますか。A～Eの中から1つを選んで、2分間話して下さい。

子どもの行動	1	2	3	4	5	6
あなたの行動						

意見が一致したグループもあればバラバラのグループもあり、苦勞してまとめていたグループのリーダーも見受けられました。普段違うクラスの生徒たちが集まったのグループだったにも関わらず、終始授業に集中し、楽しんで授業に取り組んでいる様子うかがえました。

## 意見交換会

公開授業後に意見交換会が行われました。 ※以下、議事録(抜粋)



昨年より年1回、公開授業を行うようになりました。本校はこれまで総合の時間を持っていなかったのですが、ようやく進路指導も含めてLHR以外に使える時間が出来ました。新一年生からは総合の時間で、この3D教育プログラム及び小論文指導等をメインで行なっていくということになっております。将来的にはこの公開授業を全学年、全クラス出来るような形にしていきたいという方向性で考えていますので、その第一歩として一学年の先生方にやっていただいたという感じです。学校の特徴でもあります、本校には特進、進学、選抜、総合、工業といったコースがあります。それぞれ生徒の色々な特徴や性質があったと思いますので、皆様からのご意見を頂きたいです。

三島 里司先生【小松原高等学校】

事前の部分に関しましては、1、2、3クラス全員で行なうということが初めてでしたので、バラバラにする際に生徒の関係も気にかけて配置しました。しかし今日は皆がコミュニケーションの取れていない中での話し合いでしたので、堅い子もいれば積極的な子もいて、、、その部分が今回の反省だったと思います。全体で行なうということを楽しんでくれればという思いで行なったのですが、楽しめなかったといった生徒も多かったのかなと感じています。あと、生徒から出てくる意見に対してもっと話を膨らましてあげれば良かったと思いました。今日の授業のグループは1・2・3クラスの合同ということもあり、難しかったです。

阿久原先生【小松原高等学校】

クラス別ではなく、混合で行なうということで同じフロアにいる約40名のうち、普段私は3組の担任ですので1組と接する機会があまりなく、誰と誰を同じ班にするのかというのが難しい部分もありました。教員側の作意が入っていますので良い方に転ぶか悪い方に転ぶか半々だったと思います。実際にくじ引きみたいなもので決めていたら、案外うまく展開出来たのかも知れませんが、その辺りはまだまだ検討の余地があると思いました。今日行なってみて、やはりグループによって盛り上がるどころと、逆に皆があまり発言をせず早く終わってしまうところもありましたので、そういった班に対してさらに次の質問といった3ステップくらい先を見越した質問をこちら側で準備しておいても良かったのかなとも思います。話題が尽きたところで、同じ話題に対して話し合おうとしても、間違いなく話し合うということは難しいと思われるので、それに準じたさらに違う質問を用意しておくことで制限時間いっぱい何らかのコミュニケーション取れる機会はあったのかなと思いました。今後の課題としましては、机間巡視してる間も我々教員側も勉強しなければならないなと思います。

川上先生【小松原高等学校】

グループ分けに関しては、通常クラスで行なう場合は基本座席です。うまくならない場合には、例えば休んでいる生徒の席にはずれている生徒に移動してもらいその固まりでグループを作っています。今日の場合はどのグループでも均等に話し合いが出来れ良いと思い、大人しい生徒と元気な生徒がなるべくバラバラになるようなかたちで入れました。ですが、基本的には大人しい生徒の多いクラスです。今回気をつけた点は、大人しい生徒が多いので、皆での中での話し合いが止まらないようにということは意識しました。例えば話し合いが活発になされなかったり、意見が出過ぎてしまってどうしようということになった時に、資料の通りではなく、こういうのやってみてよ!という感じでずらしつつ、それぞれのグループに助言をしたつもりです。題材的には心配ではあったのですが、結構みんながしっかりちゃんと色々なことを考えて意見を述べていましたので、他のことにも活用できそうな気がしました。

奈良井先生【小松原高等学校】

苦労した点は、活発な意見が出てくるだろうかということです。それに対してどういうテーマでこの3Dの教材を行なうかということが一番に考えて、色々な方法が出た中で今回は『小松原村の人々』を選びました。6人のグループでその情報を一人ひとりが持ち寄り、一人では解決できない問題を実際グループになり情報を共有することで、早いところは何と15分くらいで終わったんですね。凄いことです。私自身もやってみたいと思いました。大変だったところは30分という設定の中で、生徒の意見があまりにも活発に出てきてしまい早く終わり過ぎた点です。そこは私も話を入れたりしながら、何とか時間を延ばせたという感じです。今後はテーマに対してより自分達が考えていることを述べ、他の人の考えも聞けるような展開の授業が出来ればと思っています。今日は生徒達に非常に興味させられたと同時に助けられました。

大塚先生【小松原高等学校】

### ◎見学された先生方の感想

今日は『大人になるのは損か得か』という教材を使った授業を見学させて頂きました。先生のお話が非常に面白く個人的に盛り上がってしまいました。生徒達のリードの仕方も良く、生徒達も一生懸命に考えまとめようとする努力も見受けられました。本校ではエゴグラム診断のみで実際にはまだグルコミの授業は行っておりませんが、授業展開や時間配分等とても参考になりました。

辻本先生【豊南高等学校】

『もしあなたが親だったら』という教材の授業を見学しました。私は中1の担任をやっておりまして、自分の生徒達だったらどういうふうによれば盛り上がるのかなと思いながら見学していました。そこでひとつ思ったのが、親役と子供役を生徒達に(劇に近いような感じで)やらせても面白いのかなと思いました。中1の子供役を私たち教師がやり、教師を納得させるといったような。そういうのも面白いかなと思いました。中1ですので、机の授業だけではまだまだ集中してくれませんので、ちょっとした遊びの要素があっても良いのかなと感じました。

岩杉先生

今日は自分の学校でも応用出来るような技を頂こうと思って3クラスとも見学しました。全クラスともまず生徒の雰囲気が違うなと感じました。それに合わせて先生の対応の仕方も違うのだなと感じました。自分に置き換えながら見ていたのですが、混合クラスは今日初めて集められたとは思えないほど凄いなと思いました。各グループにそれぞれ凄く纏める力のある生徒がいて関心しました。そういう面では機械科のクラスは少し難しそうな印象を受けました。

ひとつ質問ですが、この3D教育プログラムの教材を使ってどのくらい達成出来ているのかを教えてください。

藤巻 朗先生【目黒学院中学高等学校】

## ◎前頁の藤巻先生の質問に対する解答

エゴグラムでいう「CP」や「A」といったことは常に気にかけて教材を選んでいきます。今回の場合は「A」にあたるものですので信用してやらせて頂いています。あとは自分も含めて今の生徒達は“まじめな話をまじめに話せない”のかなと生活の中で感じます。ただ実はあいつたものを投げかけ、人に発表するといった行為自体に価値があると思っています。高い目標としている部分というのは「CP」や「A」を伸ばすといったことでしょうか、例えばそこまで到達出来なくても“まじめな話をしてみる”“意見交換してみる”“人の話を聞いてみる”といった経験だけでも実は意味があるのかなとも思いますし、それだけが目的ならば常に達成していると思っています。

奈良井先生【小松原高等学校】

自分は担任が初めてですので結果はまだわかりませんが、自分が目標としているのはコミュニケーション・ツールとして使用出来ればと思っています。15人の少人数クラスの中に1名我が強い生徒がおりまして、その部分で使えたらというのが一番です。楽しんで一人ひとりが意見を出せるようになればと思っ使わせてもらっています。

阿久原先生【小松原高等学校】

こういったグループコミュニケーションを通して目指していることは2つあります。1つ目は“場を読む”ということです。今日残念だったことはやはり態度の悪い生徒は少なからずいて、人が発表している時にふざけたり。誰かが発表している時、同じ同級生がまとめようとしている時にとるべき態度というのは一体どういうものなのかというのを、こういった経験を通しながら身につけさせてあげたいと思っています。2つ目は普段とは違う側面を見れる大きなチャンスかなと思っています。授業やHRではなかなか見れないようなことをグループコミュニケーションの中でリーダーを任せたことで見れるということが中々面白いと感じています。

川上先生【小松原高等学校】

私は入学式の時に生徒たちにノートをプレゼントしました。学校生活の中で“聞く力”“話す力”それが“書く力”になると思いますので、聞いたものを書くという意味で全員にプレゼントしました。生徒たちは分割された情報を、やはりちゃんと聞かなければ解決につながりませんので、このプログラムを通してそこを理解してくれればと思います。

大塚先生【小松原高等学校】

## ～まとめ～



グループコミュニケーションの最大の目的が、現在社会で一番必要だと言われている『コミュニケーション能力を身につける』ということです。

“人の話を聞く力”や“自分の考えを相手に伝える力”を身につけるきっかけの場なんですよということを言い続けて頂きたいなと思います。さらにそこで終わってしまうのではなく、日頃の生徒との関わりや授業、学校行事、部活などの場で意識をして子どもたちと関わってかかると、もっと彼らのコミュニケーション力というものが高まっていくのではないかなと思っています。改めてそのことを痛感することが出来ました。今日は本当にありがとうございました。

菊地 淳【KA 教育】



# Interview

三島先生に『グループ・コミュニケーション学習』に関するお話を伺いました。

## ◎学校の紹介

本校は創立 53 年目になります。元々は実業系というイメージが強い学校でしたが、やはり時代の流れもあり平成 15 年より普通科の中に特進・進学選抜・総合選抜コースを設けました。現在は教員（正勤）が 85 名で 1450 名の生徒が在籍しております。

## ◎3D 教育プログラム導入の経緯

元々は自分のクラスだけで始めました。座学の勉強だけではなく、きちんと人の意見を聞いて人の意見を述べられる、といったような新しい教材は無いかということで他校の先生より紹介していただきました。たまたま当時、ちょっと自閉症気味の大人しい生徒がいたのですが、その生徒はエゴグラム診断の結果『要注意』となったのです。それが的中し、その後 2 ヶ月程家出をしてしまいました。そこで再度エゴグラム診断のデータを確認したところ全くその通りのデータだったのです。これは凄いデータだと思い、まず試験的に進学系で取り入れてみてはどうだろうということで導入しました。心の病や心の弱い子どもは、年々増えていますので、それがひとつの切っ掛けになりました。やって行くにつれて、これは進学だけでやるものではないと思いましたので、全校上げて行うようになりました。



小松原高等学校 三島 里司先生

## ◎グループコミュニケーションの実施状況

### ◆どの時間で実施されているか

現在は週 1 回の LHR で行っています。来年度の新 1 年生より総合学習の時間でも実施していく予定です。

### ◆年間実施回数

現状は進学で 10 回、工業及び総合で 5～6 回くらいですが、来年度からは総合の時間でトータル 34～35 時間持てますので、その内の 10～15 回になる予定です。

### ◆中心テーマや教材内容

進学系はやはりディベート力をつけ、良い意味での批判力をつけるというのがテーマです。ただ、特進クラスを設けるようになり、果たしてその部分だけで良いのだろうかといった意見もありますので、そこが新たな課題でもあります。

総合・工業の方のベースはやはり 1 年生のうちに道德教育的なものや思いやりを持つということなことです。私は長年進学を受け持ってきましたが、4 月の入学式の際に話すのは、私立は様々な場所から人が集まっていて、その地域だったり自分の考え方というのが全てでは無いということを伝えるようにしています。それが工業系の生徒の場合、駄目ということでは決して無いですが、やはりちょっと判断力が弱かったりするような子もいますので、道德教育や思いやりといったことに最初は力を入れるようにしています。

## ◎グループコミュニケーションに取り組む生徒の様子

ある程度、教員側がラインを引いてあげれば、生徒はだいたいついてくるのかなと思います。今日もちょうど 3 年生の先生と話をしていたのですが、どうやら 3 年の今の時期になって「リーダー役をやりたい」と言い出した生徒がいるみたいなんです。その先生曰く、1 年生の早い時期にもっとしっかりグルコミが出来ていれば、この子たちはまた違った成長をしていたのかも知れないと思ったようで、そういうのはちょっと惜しいですね。



### ◎教員の取り組み

本校では人間教育の一貫、勉強だけではないということを外にアピールしていますので、今まで以上に教員がしっかりやっていたらいいと思います。ほとんどの教員はそのクラスに合ったやり方を行なっています。私から見ればもうちょっと出来るのになど感じることもあります。色んなクラスがあり、何も情報の無いところから生徒を掌握し生徒にコミュニケーションをとらせるという流れの中で、発言までたどりつかないという意見も聞きます。ただ、それでもひとつのテーマに従い、先生が生徒に対し発話をさせて考えさせる方向性を持っているということでは以前より進歩したのではないかと思います。

### ◎3D 教育プログラム導入の成果

新しく加藤校長を迎えて2年目になりますが、校長の指導のもと教員も新たに色んなことに気づかされているというのが現在の小松原の現状です。校長が提言する『チーム力』とは、ひとクラスが困った時には隣同士のクラスで、それでもうまくいかない場合は学年全体でフォローする。つまりコミュニケーションをしっかり取ることが『チーム力』だと思いますので、これは生徒だけのためだけではなく、3D 教育プログラムを通してエゴグラム診断があり、その分析をもとに足りないところを補うプログラムを組んでいく。その準備に関することやテーマと内容、その進行方向を決めるという部分において我々教員は勉強出来ていると思います。生徒に関しても、在籍中は気がつかなくても進学や就職、外に出てみた時に「俺、リーダーシップとれてる」ということに気がつくのと同じだと思います。中には必要ないと思ってる先生もいるとは思いますが、知らず知らずのうちに我々にもそういう力が成果としてついてきていると自分では思いますし、そうであって欲しいと思います。

例えば、私は毎朝玄関前に立っており、生徒に「おはよう」という挨拶をするんです。最近では挨拶が出来ない子どもも多いですが、「おはよう」「おはよう」と毎回声をかけていると、普段挨拶が出来ない生徒もぼそっと「おはよう」と言えるようになるんですね。ですから如何に継続してやるのが大切なことかと感じます。

### ◎現状の課題

全体のベクトルとしては上向きだと思いますが、学年やクラスによっての温度差がまだまだあります。来年度から新体制になっていく中で、まず来年度の1年生から1年ずつ積み上げて、横の繋がりをもち、事前に教員同士の情報交換や勉強会を行い、ひとつのテーマに対してもマニュアル通りではなく、もう少し時間をかけて工夫できるようになれば今よりもっと深いものになるのではないかと思います。

### ◎最後にひとこと

進学校にしていくという旗揚げはしていますので、現状より我々教員のスキルアップが求められると思います。例えば私は56歳なのですが、56歳ではもう新しいことは出来ないというようなスタンスでは大きなステップはなかなか難しいのではないかと思います。以前、何人もの教育実習生に『生徒はナマモノ』だと言いつけました。自分は経験がこれだけしかないとか、自分はこれしかできない、これだけ教えればいいんだ...という範囲に留まっていたら良い教師にはなれないと。自己研鑽という部分を日々怠らないような、そのような教員もたくさんおられますので、現状で満足せずにもう1回足下を見直すということ。やはり『育てる』ということがベースだと思いますので。クサイ言いかたをしますと『教員魂』が大切ですね。

出来る・大丈夫・大成功

3D 教育研究会

2012.12.11 3D教育研究会 公開授業見学会 in 小松原高等学校

株式会社 K A 教育

〒1730012  
東京都板橋区大和町 12-12  
03-6784-7675